平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	スポーツリテラシーⅥ(Sports　LiteracyⅥ　)			**授業コード**	E001701
担当教員名	竹田　隆行、鈴木　照夫			**科目ナンバリングコード**	E30708
配当学年	3	**開講期**	前期		
必修・選択区分	選択	**単位数**	2		
履修上の注意または履修条件	座学だけではなく、実習もあります。他の科目を履修していなくても、この科目だけで理解できる内容になっています。				
受講心得	スポーツに対しては、各人がそれぞれのこだわり、考え方を持っていますが、そこから新しい考えは生まれてきません。ゼロベースで物事を考える重要性を学んでもらいたい。特に、プロスポーツは、新しい価値を創造しないと成り立たないビジネスということを理解して欲しい。				
教科書	プロスポーツビジネス(東邦出版)				
参考文献及び指定図書	スポーツ産業論　第6版(杏林書院) マネジメント-基本と原則-(ダイヤモンド社)				
関連科目	スポーツビジネス・マネジメント概論、スポーツ経営学、地域とスポーツ、スポーツイベント実践				

授業の目的	プロスポーツの経営について学びます。大分トリニータとの提携講座です。トリニータの経営を学ぶことによって、プロスポーツビジネスを学びます。本講義では、実際の業務を知ることで、プロスポーツビジネスのビジネスモデルを知ることができます。 スポーツイベントの仕組みを学ぶために、大銀ドームでの実習も行います。理論＋実習という実践的な内容で構成によって、プロスポーツのビジネスモデルを学ぶことを目的としています。
授業の概要	プロスポーツのマネジメントについて学びます。この講義は、座学と実習によって構成されており、クラブの課題解決のための企画提案、事業化を行います。

○授業計画	
学修内容	**学修課題(予習・復習)**
第 1 週 : プロスポーツについて プロスポーツのビジネスモデルについて理解します。ビジネスモデルは一般化できることが重要です。Jリーグのビジネスモデルについて説明します。	復習2h　講義での説明を確認すること。スケジュール確認。
第 2 週 : Jリーグのビジネスモデル Jリーグのビジネスモデルについて説明します。Jリーグのビジネスモデルは、地方都市でもプロスポーツビジネスができる仕組みになっていることを理解します。	復習2h　講義での説明を確認すること。スケジュール確認。
第 3 週 : プロ野球とJリーグのビジネスモデルについて プロ野球のビジネスモデルとJリーグのビジネスモデルについて説明します。Fリーグ、Bリーグがリーグのビジネスモデルを採用しているかを理解します。	復習2h　講義での説明を確認すること。スケジュール確認。
第 4 週 : Jリーグの理念について Jリーグの理念について説明します。スポーツ組織が、企業と同じように理念を持つようになったのは、Jリーグ誕生からです。スポーツ組織が理念を持つことの重要性を学びます。	復習2h　講義での説明を確認すること。スケジュール確認。
第 5 週 : スポーツの組織の自立について これまでのスポーツ組織は、行政や企業の支援に依存しいたことを説明します。Jリーグの誕生後は、スポーツ組織がファイナンスとマーケティングにより自立をするようになった背景を学びます。	復習2h　講義での説明を確認すること。スケジュール確認。
第 6 週 : Jクラブのビジネスについて Jクラブは、Jリーグの理念に基づいて活動を行っていることを理解します。クラブは所有の経営資源により身の丈にあったビジネスを展開する必要性を説明します。	復習2h　講義での説明を確認すること。スケジュール確認。

第 7 週 ： 大分トリニータについて 大分トリニーについて、クラブ設立の経緯、戦績、特筆事項を説明します。地方都市のクラブが、プロスポーツビジネスを行える理由を理解します。	復習2h 講義での説明を確認すること。スケジュール確認。
第 5 週 ： トリニータの地域貢献について 大分トリニータは、地域の文化装置として機能していること説明します。そののためには、ステークホルダーとの関係構築が重要になります。関係を築くための取り組みを学びます。	復習2h 講義での説明を確認すること。スケジュール確認。
第 6 週 ： トリニータの営業企画について トリニータのチケット販売、スポンサー獲得のためにどのように取り組んでいるのかを学びます。観戦者の年齢、性別、観戦歴等から特徴を把握します。	復習2h 講義での説明を確認すること。スケジュール確認。
第 7 週 ： 広報活動について これまで学んだトリニータの事業活動をどのように広報しているのかを学びます。実際の広報活動の紹介や他のJクラブの広報活動についても学びます。	復習2h 講義での説明を確認すること。スケジュール確認。
第11週： 実習 大銀ドームで実習を行います。	復習4h 演習の評価を行い、プレゼン資料に反映させる。
第12週： グループミーティング 講義で学んだ内容、実習経験を活かして、大分トリニータがかかえている問題について、グループミーティングを行います。ミーティングの内容をまとめトリニータに解決策を提案します。	復習4h ミーティングの内容を確認し、発表資料等の作成
第13週： グループミーティング 講義で学んだ内容、実習経験を活かして、大分トリニータがかかえている問題について、グループミーティングを行います。ミーティングの内容をまとめトリニータに解決策を提案します。	復習4h ミーティングの内容を確認し、発表資料等の作成
第14週： グループミーティング 講義で学んだ内容、実習経験を活かして、大分トリニータがかかえている問題について、グループミーティングを行います。ミーティングの内容をまとめトリニータに解決策を提案します。	復習4h ミーティングの内容を確認し、発表資料等の作成
第15週： グループミーティング 講義で学んだ内容、実習経験を活かして、大分トリニータがかかえている問題について、グループミーティングを行います。ミーティングの内容をまとめトリニータに解決策を提案します。	復習4h ミーティングの内容を確認し、発表資料等の作成
第16週： プレゼンテーション グループミーティングの結果を発表します。発表は、トリニータのスタッフの前で行います。	予習4h プレゼン資料の作成 復習1h 発表後の評価

授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考	講義＋演習で講義は構成されています	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	スポーツイベントに必要な知識や倫理観を身に付けるとともに、目的意識を持って自発的に学習する能力を身につける。
【知識・理解】	スポーツイベントの実践的知識を習得し、それらを総合・活用して問題解決を図るリテラシーを身につける。
【技能・表現・コミュニケーション】	チームワークを尊重しつつ主体的に活動することができ、組織の中で結果を出す能力を身につけ
【思考・判断・創造】	変容する社会において、多角的に考察・分析し、スポーツイベントの現場で課題解決できるマネジメント能力を活かし、新たな価値創造にチャレンジする能力を身につける。

○成績評価基準（合計100点）	合計欄	100点

到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		**20点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		**20点**	
【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		**20点**	**20点**
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		**20点**	

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	［Sレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 ［Aレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 ［Bレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 ［Cレベル］単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	講義の中で、適宜質問をします。優れた解答をした者は、記録して加点することがあります。